

いなかおかし

東京都世田谷区歯科医師会会報
<http://www.setagaya-da.or.jp/>

I

2018

No. 176



英国の田舎の古いホテルにて

東南アジア旅行の知的楽しみ方 「インド化」された国々へ 遺跡の旅—X L VIII

下馬部会 齋藤賢一

沖縄の第二回はグスク（城）巡りです。グスクには世界遺産が5つありますが首里（城）グスクは前回お話ししました。まずは本部半島北側の今帰仁グスクへ行きましょう。那覇から車で2時間です。12～13世紀、富と力を集積したリーダー（按司）が沖縄各地に生まれました。そのなかで特に力をつけた北山（今帰仁城を根拠）、中山（浦添城を根拠）、南山（島尻大里城を根拠）の3つの按司に収斂されて行きます。しかし誰も琉球を統一出来ませんでした。統一したのは15世紀初め南山の佐敷按司・尚巴志でした。尚巴志は初めての琉球国王となり、首里を都として首里城を整備しました。今帰仁グスクは北山の拠点でした。世界遺産今帰仁グスクは攻め込みにくい天然の要塞で4ヘクタールもの広さに10の郭を有し、首里城に次ぐ規模を誇る巨大な山城です（写-1）。私が訪れたのは2月の中頃で沖縄では彼岸桜が満開の時期です。ここ今帰仁グスクは沖縄でも有数のお花見の名所です。本来1月の終わりから2月の初めに満開になるのですが、この年は2月の中頃でもまだ5～6分でした。北山の繁栄を築いたのは中国との朝貢貿易です。ここから中国、タイ、ベトナムなどの国の陶磁器が多量に出土しています。グスクはどこも石積みが特徴です。石積み



写-1 「今帰仁グスク 世界遺産」



写-2 「今帰仁グスク 世界遺産」

の総延長は1.5キロになります。石垣からの眺めがまた素晴らしく大隅と呼ばれるくねくねとカーブを描く石積みの向うにコバルトブルーの海が広がります（写-2）。グスクとは一般的に城郭と解釈されています。すなわち按司の要塞として発展してきましたが大事な点は城内に御嶽や拝所を擁していることです。今帰仁グスクには最も神聖なテンチジアマチジという御嶽があります。

読谷村には世界遺産の座喜味グスクがあります。座喜味グスクは軍事的要塞として築かれ、要塞の完成形と言われます（写-3）。まるでイングランドやスコットランドの城壁の様です。15世紀の初頭、中山の武将の1人である護佐丸によって築城されました。中山の北山攻めの際、今帰仁グスク陥落の武功を讃えられここを築きました。特徴的なのは石垣の幅の厚さで大人5、6人が立てるほどの幅があります。また必ずある御嶽、拝所が1つありません。2つの郭が連なる連郭式の形態をしており、2つの郭にはアーチ型の門がそれぞれ1つずつしかありません（写-4）。あくまで軍事基地として使われたことがわかります。2つの郭が織りなす、とても優美なカーブした石垣の連なりは感動的です。石垣の上に登ると東シナ海が一望出



写-3 「座喜味グスク 世界遺産」



写-4 「座喜味グスク 世界遺産」

来ます。

本島の東岸、与勝半島の付け根に世界遺産の勝連グスクがあります。入口が広場になっていてここが4の郭です(写-5)。ここから眺める石垣はヨーロッパの古城の様です。勝連グスクは15世紀初頭から中頃にかけて阿麻和利の居城だったとされています。武芸にたけていた阿麻和利は中山王に代わり天下を取る野望を持っていました。しかし野望は実らず中山王の軍に殺されてしまいます。阿麻和利は租税を軽くし、海外貿易を活発に行い、勝連の繁栄を築いたとも言われています(写-6)。このグスクは地形を巧みに利用した4つの郭からなります。1の郭からは沖縄本島東側を遠望できます。

中部には世界遺産ではありませんが面白いグスクが

あります。安慶名グスクと言います、うるま市にあります(写-7)。沖縄のグスクは主として郭が縦または横に連なる連郭式グスクがほとんどですが、安慶名グスクは唯一の輪郭式グスクです。14世紀に作られました。

5つ目の世界遺産グスクは中グスクです。本島中部の中城湾を見下ろす大地に築かれています(写-8)。座喜味グスクの護佐丸が15世紀の中頃、それまでであった城郭(おそらく14世紀)を増築したとされています。美しい石積みと6つの郭を持つ威風堂々とした姿で、北側を除く三方は崖でその上に石垣が連なります(写-9)。石積みは時代によって変わります。一番古いものは野面積みでそのまま石を積み上げます。次は布積みで長方形に切った石を横にして積み上げま



写-5 「勝連グスク 世界遺産」



写-6 「勝連グスク 世界遺産」



写-7 「安慶名グスク」

す。一番新しい積み方は多角形に加工した石を組み合わせて積む相方積みです。中グスクではこの3つの積み方が見られます。

その他のグスクも見てみます。首里グスクの北4kmに位置する浦添グスクへいきます(写-10)。正確な築城年代は不明ですが13世紀とも言われています。首里城に先立つ中山王の居城だったと言われています。連郭式の大きなグスクですが首里城に首都が移ると廃墟と化した様です。城壁は一部保存されています。

本島南部には沢山のグスクが残っています。南城市の知念グスクは2つの郭からなっています(写-11)。1つはクーグスク(古城)とよばれ野面積みの石積みに囲まれ、一番高い岩山の上に立地しています。もう1つはミーグスク(新城)とよばれ2つの門と切り石積みで囲まれた郭です。ミーグスクは祭祀の場であったと言われています。15~16世紀に内間大親が築いたと言われています。

玉グスクも他のグスクと同様、海岸や海がよく見える位置に築かれています(写-12)。3の郭まである連郭式で、1の郭の城門や城壁は比較的良く保存されています。城門は自然石をくり抜いたもので1の郭の南側は絶壁になっています。13~14世紀の築城と言われています。

糸数グスクは玉グスクの近くにあります。14世紀



写-8 「中グスク 世界遺産」



写-9 「中グスク 世界遺産」



写-10 「浦添グスク」



写-11 「知念グスク」



写-12 「玉グスク」

の築城で台地の両端を絶壁で囲まれています（写-13）。表門は櫓門で切石積み、城内へ向かって右側は布積み、左側は自然石を活用した野面積みです。

具志川グスクは本島最南端の糸満市にあります。海岸へ突き出た珊瑚性石灰岩の断崖上に築城されています（写-14）。築城年は不明で1の郭と2の郭からなっています。2の郭には海に通じる「火吹き穴」があります。

保存状態が良いグスクは以上ですが、その他沢山の小さなグスクの痕跡があります。ほとんどのグスクに

登れば、エメラルドグリーン美しい海が望めます。心地よい風に吹かれて、いにしへの琉球を偲ぶのも一興です。

私が一番好きな沖縄映画「ナビィの恋」は日本映画の傑作です。

ぜひDVDでご鑑賞を。

ホームページにグスクの写真をたくさん載せてあります。

www.ravana.jp → Kyushu → 沖縄 → グスク



写-13 「糸数グスク」



写-14 「具志川グスク」